

令和元年度決算に係る事務事業に対する提言

番号	事務事業名	所管常任 委員会	今後の方向性	事務事業に対する提言
1	災害対応力強化事業	総務文教	一部見直しのうえ 継続すべき	市民向けの情報伝達手段の充実は必要である。 府中市防災メールや、一斉架電のシステム等の普及拡充を図られたい。
2	地域IoT計画策 定・推進体制構築支 援事業	総務文教	一部見直しのうえ 継続すべき	必要な事業と考えるが、分野ごとの地域課題解決にどのようにIoTを活用するのか、この事業により何ができるのか、詳細な実施計画を早急に策定し、明示されたい。
3	「学びのセーフティ ネット」構築事業	総務文教	一部見直しのうえ 継続すべき	部活動支援員については、効果的な活用を図るとともに、市内全中学校への配置に向けた取り組みとして、転換されたい。 特別教育支援員の配置については、個々の事例に合わせて、有資格者の採用も含めて、検討されたい。
4	ドローンに特化した ファブラボ整備事業	総務文教	抜本的な見直しの うえ継続	この事業には一定のニーズがあることは認めるところである。事業を継続・発展させるに当たり、事業収支評価が行われていないので、目的に即した運営がされているか、早期に検証されたい。また、運営体制と運営場所の変更も含め検討されたい。
5	スポーツによる魅力 あるまちづくり（芝 生グラウンド）事業	総務文教	抜本的な見直しの うえ継続	当初の計画に進捗が認められないことから、候補地も含めて白紙に戻し、再検討されたい。
6	移住・定住促進事業	総務文教	休止・廃止すべき	何年間も一部見直しを行いながら継続してきた事業であるが、事業効果はまったく見えないため、廃止されたい。現段階においては、府中市の魅力をオール府中で磨き上げることが先決である。

7	府中版ネウボラ（子育て総合相談拠点）設置事業	厚生	現状のまま継続すべき	妊娠期から子育て期までの一貫したサポート・相談窓口としてより充実させるため、多職種との連携を強化し、専門性の確保を図られたい。また、働く母親が相談しやすい時間帯の検討やオンライン相談の拡充等を検討されたい。
8	放課後の児童の居場所づくり事業	厚生	現状のまま継続すべき	子どもの居場所づくりと親の就労支援の事業として定着しているが、各事業の取り組みに地域差があるのではないかな。必要な支援員を確保し、関係機関と連携を図られたい。
9	三玉プロジェクト（上下地域包括ケア拠点施設整備事業）	厚生	抜本的な見直しのうえ継続	事業としての必要性は確かだが、地域住民のニーズをさらに確認しながら真に住民のためになる施設として検討されるべき。補助金と過疎債で市の負担は軽減される事業となっているものの、費用対効果を含め、抜本的な見直しをされたい。
10	サービス付き高齢者向け住宅入居者支援事業	厚生	一部見直しのうえ継続すべき	地域包括ケアの一環として必要な事業であるが、さらなる経営努力で、損益分岐点を越えるよう努められたい。
11	医療体制確保事業	厚生	一部見直しのうえ継続すべき	医療提供体制拡充のため必要不可欠な事業である。その効果を十分発揮できるようきめ細かい対策を取られたい。
12	湯が丘病院基本構想策定事業	厚生	一部見直しのうえ継続すべき	将来構想検討委員会において積み残された課題について早急に整理し、問題を明確にした上で、建て替えスケジュールを明示されたい。
13	桜が丘団地子育て応援モデル住宅販売事業	建設	休止・廃止すべき	団地販売促進の手段として工夫されたもので一定の評価はできるが、団地販売全体を考えた場合には、販売促進に直結したものとは言い難く、また、ニーズに合致しない住宅は費用対効果が低いと考える。 今後、コロナ禍で販売は苦戦すると予想され、販売価格の更なる値下げを行うとともに、本事業を廃止し、インパクトのある事業を検討されたい。

14	産業振興ビジョンの策定	建設	現状のまま継続すべき	ビジョンの策定にあたり、策定委員会やワーキンググループにより、多くの意見が反映されたものとして評価できる。 今後は、ビジョン策定で終わることなく、ビジョンに掲げる目標を達成するためには、産業連係室のリーダーシップが必要不可欠であり、そのために、産業連係室の機能をさらに拡充されたい。
15	地域活性化に向けた公共交通の構築	建設	休止・廃止すべき	高齢化社会や核家族化が進展する中、公共交通の必要性は高まっているものの、利用者も少なく、期待していたスマートフォンによる予約がなく、オンデマンド交通の検証となっていない。 本事業の取り組みは廃止し、地域のニーズ調査を行ったうえで、利用しやすい公共交通としての取り組みを実施されたい。
16	上下地域の観光振興事業（上下プログラム）	建設	一部見直しのうえ継続すべき	外国人観光客の来訪は、他の観光客の注目を浴びるなど、必要なことではあるが、目に見える効果を期待するためには、国内での来訪者に対する取り組みを優先さ、収益をあげていただきたい。 翁座について、上下地域全体の観光ビジョンを明確にしたうえで、活用方法を早急に決定すべきである。ただし、復元改修は、費用対効果が極めて低いため休止し、例えば、見物施設とするなど、費用対効果が比較的高い活用法を検討されたい。
17	駅周辺の賑わいづくり	建設	現状のまま継続すべき	駅周辺の賑わいづくりは、長期間停滞してきた課題解決の取り組みとして必要である。また、府中天満屋のネウボラと屋内広場は順調に進んでいる。府中駅から国道まで抜ける道路を整備するなど、最大限の効果を発揮するよう継続して取り組まれたい。